

## 第2期第19回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕 2016年1月25日（月） 10:00～12:00

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委員：石川清（会長）、井手伊澄、岩本陽児、太田美帆、小川久江、押村宙枝、貝原俊明、佐合昭浩、辰巳厚子、富川尚子、西原要四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子以上15名

事務局：稲田センター長、鈴木担当課長、松田事業係長、小林管理係長、高木担当係長、村田担当係長、小山主事（記録）

〔欠席者〕 なし

〔傍聴人〕 1名

〔資料〕 ・第19回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・市民大学各講座の指標として 資料1・2
- ・市民大学について（当日資料）
- ・「市民大学」の評価（1年間の議論を通して）まとめ方（案）（当日資料）
- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書 資料3～5
- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 資料6～資料28

### <市民大学について>

会 長： 2名の委員から事前資料をいただいている。ご説明いただきたい。

委 員： 資料1は市民大学のコンセプト「あなたを励まし地域を育てる」のうち、「あなたを励ます」と「地域を育てる」を2段階に分け、「あなたを励ます」に分類される講座でもインプット＝学ぶだけでは地域で展開するのは難しいので、アウトプットとして表現することを学ぶ講座を取り入れた提案である。現在の市民大学はインプット中心の編成で「修了したら地域で展開してください」と言っているがなかなか難しい。そこで、受講しながらも表現する機会を設ける。最初は講座内でお互いに学んだ内容を理解している者同士で発表することを行い、次に市民大学内の他の講座の学んだ内容を知らない人に対して表現を行なう。その後市民大学のバックアップを受けながら市民大学の紹介やPRなど伝えることを学ぶ場を設け、ステップを踏みながら地域活動にそれぞれが独立していく。講座毎にどこまでやれるかを検討し、ステップ6ぐらいまで設けていただくと地域への発展がしやすいと思い、資料を作成した。

委 員： 資料2は、押村委員作成資料に準じて現状の講座がどういった状況にあるのか、私見を踏まえて指標にしたものである。他の資料や修了生団体の情報を踏まえると、各項目の達成有無の丸はもう少し増えると思う。とくに、「地域を育む」講座の中の、「アウトプット→学びを広める→地域住民として」という分類項目は、地域住民として学びを広めている活動がされていると思うので全て丸が入るのではないかと思う。

会 長： 当日配布資料をいただいているので、ご説明をお願いしたい。

委 員： これまでの「あなたを励まし地域を育てる」という市民大学のコンセプトは続けて良いと思う。ただし、その中で「あなたを励まし」は達成できても、「地域を育てる」まで結びつけるのは難しいということは感じている。講座のコンセプトは年々変わっていく可能性があり今回取り上げることがはしなかったが、生涯学習センター内で『この講座は「地域を育てる」まで行ってほしい』という講座と、『「あなたを励まし」までで良いのではないか』という講座に、ある程度分類しても良いのではないか。また、学んだことを自分の言葉にして周りに伝えていくことができ、修了後もフォローをするような講座や場所を生涯学習センターで提供して行くのがよいのではないか。その際には、講座毎より市民大学全体の同期生が集まることで、違うテーマを学んだ者同士でも同じ地域にいる人たちが横のつながりを持つことができ、地域に還元していく要素が増えるのではないかと思い、このような提案をさせていただいた。

委 員： 今まで一つ一つの講座を評価してきているが、市民大学の総括的データがまとめには必要だと

思う。評価に関しては、科目別評価として事業評価を科目ごとに挙げて運営協議会でどういった評価をしていきたくを取り出してみる、さらに今の段階の全体の総合評価を出す。あくまでも、報告書ではなく私たち委員が1年間評価したものを生涯学習センターに提案し、それを受けて生涯学習センターがどう考えていくのかを聞きたいという思いもある。

会長：最終的には、辰巳委員のお話にもあったように各論と総論でまとめて行けばいいと思っている。私の思いとしては、「はじめに」ということで我々がしていることの位置づけをしたかった。運営協議会第1期では評価、やり方の是正、第2期では市民大学を生涯学習という観点から位置づけてみようということで行なってきた。その流れとその後に向かってどう行くべきかを1つの思案としたい。経済的な面や人員その他を考えると必ずしも総花では今までのような結果を得られず、絞った形のほうがはるかに効率的であるということを手張していかないといけない。そういった中で何に絞るのかということで、再構築して行く。市民大学の中の意義として「あなたを励まし地域を育てる」という点は一致していると思うが、生涯学習センターのあり方や方向性としてみることはできないと、第3期に向かう1つの着地点として考えていけないかと思っている。実施する側、評価する側ではなく、フェアレビューの形を作っていくかと感じている。なかなか人数が集まらない講座は、数の問題で受講数が増えないなら削ろうという議論ではなく、質の問題が大事になる。質の問題を取り上げて行くには、フェアレビューをする環境を作っていくことが必要である。そういった点を組み込めたら良いと思っている。

委員：私も何らかの形でまとめていく時期に来ていると感じる。会長がおっしゃるように、「はじめに」ということでこの問題をどういう風にして取り上げたかという背景や運営協議会の第1期から第2期に渡っての検討の状況や背景をまず述べて、「市民大学の意義とあるべき姿」についてゴールの問題も含めて協議した内容を述べる。その次に、色々なデータも踏まえ見学をした感想などを交えた「市民大学の現状と課題」という章立てにして、さらに「未来への展開」として可能な範囲で連携支援のあり方も具体的提案にして章立てにし、最後に「まとめ」で締めくくる。今までやってきた流れに沿ったまとめ方になると思うが、いかがか。

委員：資料1、2にある6つのステップを逆さまにしたらいかがだろうか。ステップダウンしてしまう見え方になってしまうので、ステップアップするイメージが良いのではないか。

委員：すべての結論に行き着かなくても、今まで議論してきたことがとても大切であり、私自身が学んだことも含めて、共に考えたという課程が重要であると思う。この段階で運営協議会として提言をするよりも、話してきたこと、感じてきたこと、学んできたことを伝え、行政の方たちに考えていただき、次のステップに向かっていただけるかどうかというものだと思う。

委員：やはりここまでの過程を大事にしていきたくし、生涯学習センターの方たちを信頼しているので、その方たちがどう汲み取ってどういったステップを進んで行くのかということだと思う。

会長：質問をしたい。どうしても行政は、市民の代表者が述べた意見について、そういった意見が出ているから従うという論理で動いている気がしていて、なかなか行政の方々が平等に議論できるような環境はいつもないように思っている。どの自治体に関しても感じている。行政がもっとリーダーシップを取ってもよいのではないかと思う。やはり、そういったものなのだろうか。

センター長：運営協議会は、評価が主な役割ということが要綱で決められている。それ以外の点についても、委員の皆さんにご意見をいただきたいと思っている。審議会などでは、諮問、答申という形が取られるが、協議会ではそこまで決められておらず、報告する等の決まりはない。ぜひ委員の皆さんの意見を伺いたいという思いから時間を割いてやらせていただいている。形として最終的な結論は出ないかもしれないが、良い機会なので今まで議論されてきたことを報告として形にしていればと考えている。

会長：センター長の意見としてはそれで正しいと思うが、我々委員も評価から逸脱しているわけではない。評価を正しくするためには、その方向や周りのことがわからないとできないから、やっている。あくまでも、評価ということを手頭に置いている。

委員：この市民大学についての議論についても、私は評価が90%だと思う。市民大学全体としてどうなのかという評価をして、課題があるならば課題を挙げ、「こういった方向性がありますよ」ということを簡単な文章で伝えるべきだと思う。せいぜい4、5ページ程度の範囲で、今まで討議してきたことをまとめるのが良いのではないか。

- 委員：生涯学習センターの職員が意見を述べないほうが良いと思う。職員として個人個人が意見をお持ちだと思いがそれを言わないのは、我々委員を尊重しているからだと思う。行政としてトップダウンで実施して失敗しているものも、思うように行かないものも多々あると思うが、逆に我々を尊重しこういった場を設けていただいているこの姿が私は良いことだと思う。私は協議会委員だけを務めているので他市の委員は、「公運審」と呼ばれていて答申力がある。生涯学習審議会委員のレポートなどを読むと、生涯学習センター自身の問題は、自分たちで答申し自分たちで変えることが自由にできると認めていて、否定はしていない。我々はやっていくべきだと思う。折角ここまで協議してきたなら、出して行けば良いと思う。
- 委員：私たちの役割として評価することが中心だと言う事は、要綱に書いてある通りである。評価するにも、知っていなくては評価の基準も、どう評価するのかわからないと思う。なぜ市民大学について討論するのかというと、時代に伴い方向性が他にあるのではないかとということで今まで議論してきた。今までの市民大学についてそれなりに評価しているし、実績は達成してきていると思う。市民大学が始まり 10 年以上経ち、同じままでいいのかというところを疑問に思い、「地域を育てる」という方向性も少し違うのではないかと議論してきて、概ね合意を得たと思う。今までやってきたことには評価し、その中で「私たちはこういう風に考えました」というものを出し、生涯学習センターとしても「皆さんの意見を聞きました」と終わってしまうのではなく、生涯学習センターとして今後どうしていくのか、方向性をお伺いしたいと思っている。
- 委員：以前から、生涯学習センターからの意見を聞いてみてはいかがかと提言をさせていただいている。広報まちだに生涯学習センターとして、地域への展開がこれからの課題であると掲載され、それに基づいて「地域を育てる」という点を話し合ってきているが、生涯学習センターとしてどのようにお考えかを的を絞って伺いたいと思っている。
- 事務局：5 月に市民参加型事業評価があり、委員から今後の展開などについて問われた。問われた点について現在、生涯学習センターとしての答えをある程度出しているところである。また、実際にどのように取り組んでいくのかを私どもも考えていないわけではなく、昨年 9 月から 12 月にかけて市民大学担当者 9 名を 3 グループに分け、「市民大学をどのように考えているのか」について意見聴取や話し合いを行なった。現在、プログラム委員の改選に合わせた 2 年後に向け、生涯学習センターとしてどのように進めて行くのか資料の作成に取り組み、今年度中にまとめる予定である。来年度は、2 年後に向けた方向性を定め、それを受けて運営協議会の中で話し合いをしていただければよいのではないかと考えている。
- 委員：市民大学を理解するうえでプログラム委員のあり方を先に知るべきだと思い、プログラム委員との懇親会を提案した。しかし、その結果はプログラム委員の堂前雅史氏による市民大学の創生に関するお話で終わってしまった。プログラム委員は市民大学を作っていく上で年間に 50～80 冊の本を読むと聞いている。市民大学を実施する上でプログラム委員の活躍が大きく影響しているのに、運営協議会委員だけで市民大学について考えて行くのは失礼な話しになるのではないかと。また、「地域を育てる」の展開についても、当事者の話を聞かずに、運営協議会委員の意向だけで決めるのは違うのではないかと今でも感じている。
- 会長：生涯学習センターになる前は、プログラム委員と運営協議会委員の協議を 1 年に 1 回は実施していた。立場が違い難しい場面もあったが年々距離を縮めていたところで、生涯学習センターになり協議の機会がなくなってしまった。また、プログラム委員の改選の件が挙げたが、それは生涯学習センターの意志と考えてよろしいか。
- 事務局：プログラム委員の改選については要項のなかで最大 4 回更新と定められ、今回の委員の更新終了が 2 年後にあたる。市民大学のプログラムは実施の前年に作るものなので、逆算し市民大学を今後どう考えて行くのかに取り組むのは来年 1 年となる。その上でプログラム委員の皆さんにこういった形をお願いしたいとお話することになる。現在市民大学について運営協議会委員の皆さんに考えて頂いている部分と、プログラム委員と市や運営協議会委員とプログラム委員との関係でうまく整理できていない部分があり、私どももどう取り入れていったいいのかすっきりしないところがある。そういった点をうまく調整していくには改選を目的に内部でも検討し、運営協議会の皆様方にもご意見を頂戴した上で、プログラム委員の方々にも「こういった

形をお願いします」ときっちりとお伝えできれば一番良いのではないかと考えている。

委員：前回市民大学に限って話をしていたので今回の資料を提出したのだが、内心は市民大学と生涯学習センターはどうなっているのかということを感じている。市民大学に「あなたを励まし地域を育てる」コンセプトが付いているので6段階に切っているが、「地域を育てる」の部分を拡大し生涯学習センターの役割として台形的に展開していけば、市民大学の修了生に「あなたの方が地域で展開しなさい」と言わなくて済む。市民大学で学んだ人たちが地域に出て行くバックアップやコーディネートする役割は生涯学習センターがやりますと言ってしまうと、すっきりとするのではないかと。生涯学習センターってなんだろうということをおはいつも感じていて、この場所なのか、町田市全体の生涯学習の機能なのか、市民大学やことぶき大学などの事務局なのか、どこに軸足を置いて皆さんが取り組んでいるかによって、やれることが違うと思う。生涯学習センターとは、一番大きな町田市の生涯学習を包括するものなのか、センター＝中心なのかをどう思っているか、どこまでやろうと思っているのかをもっと知りたい。市民大学が取りこぼしている部分を生涯学習センターとして拾ってしまうと、市民大学でこれもあれもやりなさいと言わなくて済むのではないかと。

事務局：気持ちとすると町田市全体のセンター（中心）でありたいと思うが、現実にはそのようになっていることは承知している。市民大学のアウトプットの形を考えたときに、生涯学習センターで全てを用意することはできないので、例えば環境や福祉など市役所の中にそれぞれ部署があり様々な委員会があるので、市民大学で学んだ方々が委員として活躍できればアウトプットの1つの形になるのではないかと。いったことも話し合いの中では出ていた。コーディネートをうまくして、市民大学で学んだ方と他の部署との間を取り持てるような存在でありたいというのが、担当の思うところである。

委員：アウトプットという言葉を使ったので誤解があるのかもしれないが、市民大学で学んだ人が必ずしも地域で展開する際に講師にならなくていいと思う。「自分で学んだことを、さあ人に教えましょう」ではなく、「私はこんなことを学び豊かになったから、あなたも一緒に学びませんか」とか「生涯学習センターは遠い方は、自分の住む地域で学びましょう」と言えるところまで持っていけば、「地域を育てる」は実現される。市民大学で学んだ人が「楽しかった」「講師が良かった」と言って下されば、その講師を地域に呼んで学ぶという手立てがあるので、必ずしも学んだ人が教えなさいということではないのではないかと。

委員：協議会はあと2回しかないのだから、その中でどういったステップで取り組んで行くかを具体的に議論しないといけないのではないかと。議論すれば意見や資料は幾らでも出るが、あと2回の協議会を有効に活かさなくては、あつという間に終わってしまうのではないかと。

会長：次の段階では、どういった経緯でここに至ったかをきっちりとまず言いたい。それに向けてなにをしてきたかについて市民大学の今までやってきた部分をまとめ、最終的に地域への展開など展望の入口のようなところでまとめたい。今の段階では、章立てもできていないので誰がどこを受け持つかなど具体的なことを言えないが、たたき台のようなものは私が示していく。総括データなどは事務局に用意していただく。最終的には総合的に評価してどうだったかという所を議事録などから追いついて、評価に至る経緯や評価については皆さんにご意見いただき、文章にしていきたい。

委員：次回までには、第一案のようなものが出来てほしい。その前には会長からアウトラインを提示していただいて、それについて役割分担を決めるような集まりを、次回協議会の前に1度行なう必要があるのではないかと。

会長：次回2月26日に骨子など案を作り、精査すればよろしいかと思うが、それでは遅いか。また、どうしても年度末に完成させないといけないものでもないのではないかと。

委員：委員の任期は3月末までなので、3月末までをゴールにする必要があるから、次回協議会で骨子の精査をするのでは遅いと思う。前倒しでやらなければ、結果的に何もできないままになってしまうのではないかと。

委員：ある程度骨子を作って、早めに送っていただきたい。

事務局：皆さんに提供した上で、一度集まっていたら2月の協議会を迎える形がよろしいのではないかと。

委員：そのやり方では難しいと思う。なぜなら、前回の協議会で意見を出すということだったが、2人しか提出はなかったし、個々に出した意見をまとめて文章にするのは、簡単にいかないと思う。やはり「はじめに」として私たちが何をしようとしたかというのが一番重要であり、今までの経緯を持って今転換期に来ているのではないかと問題意識を持って始めたわけである。また、総花的なものから市民主体へ軸を移していく点の再構築という点が私たちの結論である。会長に「はじめに」と「結論部分」を書いていただき、私たちはその間の市民大学に対する評価のまとめを担当したほうが良いのではないかと。1点提案は、今までの5年間の講座をテーマごとに分け小グループで分担して、それを評価していく。今までやってきた部分は十分だと思うので、やった部分はどこなのかということを書けばよいと思う。議論の体制では難しいのでワークショップ形式で取り組みたい。第一部ではテーマ別のものを分担して評価する、後半は次の再構築への1つの提案として「地域を育てる」という点を私たちはどういう風にイメージしたのかをまとめるのはいかがだろうか。

委員：皆の意見をきれいにまとめるというよりも、参加者全員が数行でばらばらの意見でも自分の思いを入れたほうが良いと思う。ばらばらの良さが何かに反映されると思うので、そういった欄を章立ての中に入れる。全体としては一貫性を持たせなくてはいいが、その中に皆の意見を入れる項目があればありがたいと思う。

会長：2月15日10時～市庁舎で臨時会を行なう。それまでに骨子を提出する。

#### <協議事項>

##### 1、2015年度生涯学習センター事業の企画について

###### (1) 生涯学習ボランティアバンクスキルアップ講座

事務局：－資料3の説明－

(意見・質問)

委員：ボランティア登録後の更新や削除はどのように行なっているのか。

事務局：2年ごとに更新を行なっている。昨年3月に更新を初めて行い、90件の登録が70件くらいに減ったが、今年度に入り新たな登録が増えている。

委員：ボランティアを頼みたいときに、実際は派遣できないという可能性は極力少ない状態ということか。

事務局：更新をかけているので、オーダーがあれば対応できる方が登録されている状態である。また、生涯学習センター6階でボランティア紹介を掲示している。

委員：1年間にどのくらいの依頼があるのか。

事務局：現状では年間25件である。そのほかに1日体験講座など市民の皆さんにPRする場を設けている。

委員：25件はどこかで実施されたということか。

事務局：そうである。当事者間でのやりとりとなるリピーターを入れると更に件数が増えるが、生涯学習センターでコーディネートし橋渡しをした件数は25件である。

委員：小林係長が頑張ってください、学校にもPRを行なったと聞いた。お話を伺いたい。

事務局：学校支援ボランティアコーディネーターの会やPTAの会議で何度か周知活動を行なった。今年度に入り、PTAから初めて依頼をいただいている。学校支援ボランティアコーディネーターは、元々ボランティアの登録が1000件単位で入っているため、当事業の利用が少ないのが現状である。今後の展開として、学校支援ボランティアコーディネーターとの連携について、何度か打ち合わせの場を設けさせていただいている。

###### (2) 東日本大震災から5年と町田

事務局：－資料4の説明－

(意見・質問)

委員：町田市中心図書館の「陸前高田市の被災資料修復展」は、いつ行なわれるのか。

事務局：2月27日(土曜日)～3月13日(日曜日)までである。

(3) 学生活動報告会「学生フォーラム」

事務局：－資料5の説明－

(意見・質問)

委員：参加団体はどういった団体か。

事務局：ビジネスマネジメント学群山口ゼミ 山崎団地活性化プロジェクトチーム(桜美林大学)、サービスマネジメント学群山口ゼミ 山崎団地活性化プロジェクトチーム(桜美林大学)、さがまち学生 Club、文学部比較文化学科太田ゼミ(玉川大学)、僕らの夏休み Project 玉川支部(玉川大学)、多摩ボランティアセンター(法政大学)の6団体に加え、町田市成人式の企画・運営委員である二十祭まちだを調整中である。

委員：非公開のワークショップはどういったものか

事務局：同じ団体で固まってしまうことを避けたいので、個々それぞれで仲良くなっていただきたいという目的で、アイスブレイクの役割で行なう。午後は、地域貢献や地域の役割を話し合う堅い内容となるので、楽しみながら本来の目的を再確認していくような形式を考えている。

委員：アイスブレイカーの平野友規氏は、どのように選ばれたのか。

事務局：さがまちコンソーシアムのさがまち学生 Club 等々でお願いをしている方なので、若い世代の方なので一緒になって楽しみながら進めて行くことを考えている。

## 2、事業評価について

### (1) バイオリン演奏会「姉妹バイオリンデュオコンサート」

事務局：－資料6の説明－

(意見・質問)

特になし。

### (2) 市民大学後期(陶芸入門講座、まちだの福祉、まちだ市民国際学、「人間関係の未来探求」講座、町田の郷土史Ⅱ、まちだ de エコライフ、“こころ”と“からだ”の健康学、多摩丘陵の自然入門)

事務局：－資料7～15の説明－

(意見・質問)

委員：陶芸や福祉について、今後の活動を希望している方に対してどのようにされているのか。陶芸の場合は陶芸会という修了生団体に入ることを推奨するのか。3年間の陶芸活動が継続できるようなフォローしているようだが、生涯学習センターからの資金援助を行なっているのか。

事務局：陶芸会については、3年間という期限を設けていて、年間3000円で貸しているが、実費でないので資金的な援助を行なっているとも考えられる。現在は町の中でも陶芸教室があるので、競合しないことが重要だと思う。そういった資源をどのように活かして行くのか、公的にやるのか民間でやるのか判断は難しいところである。

委員：私は好意的に考えている。修了してすぐに自ら活動を活発に行なえるかとなると難しいので、修了生団体に入ると、地域との折り合いなど様々な部分を身に付けながら行動ができるのではと思う。修了生団体に優先的な場の提供する仕組みを作っていたら、初期の段階で団体活動がうまく行くのではないかと思う。

事務局：福祉講座は、場所を生涯学習センターが押さえ、修了後活動をしたいという方と職員と一緒に話し合いをしている。既にある団体も前期の受講者にいるので、一緒に活動を行なうことや別の団体を作ることを勧めたが、最終的に別の団体を作りたいという話しになった。道筋を作るまでが職員の仕事だと思っている。

委員：生涯学習センターは部屋の予約が取りにくいので、それで修了生団体作りが踏み出せないということもあると思う。例えば、年に回数を決めて優先予約できるなどチャンスをつくっていただきたいと思う。

委員：環境学講座は、定員が24人と企画書にはあるが、事業評価欄には募集定員40人になっているのはなぜか。

事務局：環境学講座は募集定員40人で統一である。訂正いただきたい。

委員：人間学講座は募集定員70人のところ、応募者は19人であるが評価はAである、いかがか。

事務局：担当職員の主観によるものである。

委員：健康学講座の「笑いヨガと漢方」とは具体的にどんなものやられたのか。また、人数を増やすことを検討する旨が書かれているが、具体的に案などあるのかお聞かせ願いたい。

事務局：「笑いヨガと漢方」は、漢方の先生が講師であり、ヨガだけでは2時間持たないので漢方のお話をということになった。笑いヨガは、笑いながら輪になって手を挙げるなど顔の表情や身体を簡単に動かすものであり、受講者の皆さんのノリがよく楽しんでおられた。人数については前期から増員したが、一般の方が受講できる公開講座内で、お試して参加し次の市民大学で申し込む方の枠を考えるとなかなか難しいと感じる。

(3) ことぶき大学（映画コース、歴史コース、美術コース、世界文化遺産コース、健康コース、後期健康コース、後期音楽コース、後期くらしコース）

事務局：－資料16～23の説明－  
（意見・質問）

委員：資料23「後期くらしコース」には、副題がついていないのか。

事務局：「一人ひとりが元気にいきいきと暮らすために」という副題がついている。

(4) 乳幼児の保護者のための講座Ⅱ、小学生の保護者のための講座

事務局：－資料24、25の説明－  
（意見・質問）  
特になし。

(5) 利用者交流会企画「生涯学習センターって何するところ」、市民企画講座「『性の多様性』を認め合うコミュニティをめざして」

事務局：－資料26、27の説明－  
（意見・質問）  
特になし。

#### <報告事項>

1、事業評価の最終報告 報告事項なし

2、センター長報告

3月議会が実施される。詳細については、町田市ホームページをご覧ください。

3、町田市生涯学習審議会の議論について

委員：答申の取りまとめ最中である。ワールドカフェの形式などで知恵出しに取り組み、各委員が割り当て箇所について案を書いて持参し、前回の会議では一様の形になった。原案についてご意見があれば1月29日までにいただきたい。答申のなかには生涯学習センターについての記述もあり、今回の運営協議会では事業評価に終始してしまっているのではないかと話があったが、市民大学について議論を行なっていることを報告した。

4、東京都公民館連絡協議会の活動について

○委員部会について

委員：平成27年度東京都公民館連絡協議会委員部会第2回研修会が1月30日に粕江市中央公民館で開催される。前回協議会で周知事項である。ぜひご参加いただきたい。

4、その他報告事項

会長：次回は2月26日金曜日14時～町田市生涯学習センター6階学習室2で開催する。